

安心して暮らすための治水事業

大東の水害

今から約50年前の昭和47年7月10日から13日にかけて府内を襲った豪雨では、増水した河川の水が



昭和47年7月豪雨時の市役所前

堤防を越え、市内広域に甚大な被害をもたらしました。全国的にも有名となった「大東水害」です。

また、近年では、平成24年8月14日の集中豪雨で下水道があふれ、市内各所で浸水被害が発生しました。

このように大東市は、昔から水に苦しめられ、水と戦い、水と共存してきました。

大東の治水事業

大東市は河内平野の中東部に位置しており、北と南は淀川と大和川、東と西は生駒山系と上町台地に囲まれた低い湿地の中で発展した都市です。この河内平野は、多くの河川が流れ、昔から洪水による水害が絶えない土地であったことから人々の生活や農作物を守るために堤防建設や河川の改修・付け替えなど、これまでに多くの大規模

な治水事業が行われてきました。

寝屋川・恩智川にそびえ立つ高い堤防や増水した寝屋川の水を一時的にためる深北緑地などは、府が行った代表的な治水事業の施設です。

この他にも、府では排水能力を向上させるための新しい下水道管の整備、雨水を一時的に貯留する流域調節池の整備や地下河川の建設を行い、浸水被害を最小限にする事業を現在も行っていきます。

市においても、想定外の大雨による浸水被害を軽減するために、学校や公園のグラウンド面に雨水を一時的に貯留する施設の整備や、ポンプ場の改修・更新を行い、市民の生命や安心できる生活環境づくりなど人権を守る取り組みを進めてきました。



寝屋川の堤防(住道デッキから下流側)



ポンプ場(五軒堀排水機場)の内部

いのちを守るために

しかし、近年、全国各地で頻発する記録的な大雨などの異常気象に関して、行政の治水事業などハード対策だけで立ち向かうには限界があります。そのため、市では自分で避難場所を確認できるハザードマップの作成や地域の自主防災組織への支援などソフト対策を進めています。これに加えて市民・企業など個々においても自分たちの身は自分たちで守るという自助や、近所同士で助け合う地域の共助が災害から生命を守る大きなポイントになります。

これから大雨が降りやすい季節です。いっどこで起きるかもしれない水害について、家族や地域の方々と話し合い、災害に備えましょう。